

子ども読書支援センターニュース No.140

2016. 2. 1

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成28年2月2日（火）11：00～11：20

○会場：山口県立山口図書館

○対象：幼児

【1月のおはなし会で使った本】

『ばんぼこぼん』 矢代貴司/脚本 ひろかわさえこ/絵 童心社 2015

『のって のって』 くろいけん/さく・え あかね書房 1982

『これはまる』 中川ひろたか/ぶん tupera tupera/え ポプラ社 2015

『あぶくたった』 さいとうしのぶ/構成・絵 ひさかたチャイルド 2009

『にんじんとごぼうとだいこん』 和歌山静子/絵 鈴木出版 2007

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『おやすみ』 ふじわらこういち/しゃしん・ぶん 新日本出版社 2015.11 ¥1,300

ラッコさんがぶかぶか海に浮かんで、うとうと。大きなあくびのコアアさんが、木の上でむにゅむにゅ。おサルさんもぬくぬく、眠たいな…。みーんな一緒にねんねの時間。動物達が眠くなり、ぐっすりおやすみしている無防備な寝姿が可愛い写真絵本。他に、動物達が上手に2本足で立つ様子を収めた『たったたった』も同時刊行。「おもしろどうぶつえほん」シリーズ。

<絵本-3, 4歳から>

『おやすみなさい くまくん』 パッツィ・スキャリー/さく リチャード・スキャリー/え 木坂涼/やく 好学社 2015.12 ¥1,400

もう眠る時間。お父さんが、くま君を肩車してベッドまで連れて行ったが、なかなか肩から降りようとしないう。そこでお父さんはあくびをひとつしてから目をぱちくり、くま君はどこだろう？と驚いてみせた。肩に乗ったままのくま君のことに気づかない様子で、毛布の下、台所、ストーブの下まで探し…。大らかでユーモアに満ちた家族のやりとりに笑みがこぼれる一冊。

『おしゃべりこんぶ』 おかいみほ/作・絵 フレーベル館 2015.11 ¥1,200

100人のお爺さんと100人のお婆さんが住む静かな町。おしゃべりをする人は誰もいない。そんなある日、男の子がやってきて、お爺さんに「おしゃべり昆布」をあげた。すると、急にお爺さんが明るい顔でしゃべりだした。男の子は友達を呼び、町の皆にこの昆布を配ることに。町はおしゃべりで溢れ…。奇想天外ながら、心が温かくなる一冊。作者はイタリア在住。

『ねこだらけ』 あきびんご/作 くもん出版 2015.12 ¥1,300

ようこそ楽しい猫の世界へ。登場するのは400匹もの猫たち。さまざまな種類の猫の親子に、動物園にいる猫の親戚、日本各地の寺猫、店猫、庭猫、そして世界各国の民族衣装を着た猫…。実在の猫から空想上の猫まで、創造力が刺激される、ユニークな猫が勢揃いの眺めて楽しい絵本。猫達1匹1匹を観察したり、衣装を眺めたりと、読み手次第で楽しみ方は無限大。

<絵本-5, 6歳から>

『こえだのとうさん』 ジュリア・ドナルドソン/作 アクセル・シェフラー/絵 いたうさゆり/訳 バベルプレス 2015.12 ¥1,500

大きな木の家に、小枝の一家が仲良く暮らしていた。ある日、小枝の父さんが、犬に連れて行かれてしまった。犬の遊び道具にされた後、「ぼう」としていろいろなことに使われて、家族のもとに帰れない。季節は春から夏、秋を過ぎ冬になった。あきらめて暖炉のたき火にされそうになったクリスマスの夜、奇跡が起き…。独自の設定と愛嬌抜群のキャラクターが魅力。

『かぼのペロニカ』 ロジャー・デュボアザン/作・絵 神宮/輝夫/訳 復刊ドットコム 2015.11 ¥2,000

目立たないかぼ、ペロニカは、有名になれる場所を探しに出かけた。人間の町に着いた彼女は、大いに目立ただけでなく、広場の池の水を空にしてしまったりと大騒ぎを引き起こしてしまう。八百屋の野菜を勝手に食べてしまい、ついに人々に追われることになって…。1978年刊『かぼのペロニカ』（佑学社）を底本に、再編集して復刻。全3巻のシリーズ第1弾。

<絵本-小学校低学年から>

『むねがちくちく』 長谷川集平/作・絵 童心社 2015.11 ¥1,400

私はリリちゃんと日曜日に遊ぶ約束をした。約束の11時に動物園の前に行っただけに来ない。リリちゃんに電話すると、水族館の前にいると言う。お互いに自分は悪くないと、相手を責めて傷つけあってしまい、胸が痛くなった。次の日、きちんと会って話し、仲直りをして…。友達関係を抱く、複雑な胸のうちは繊細な筆致で描く。広い余白が効果的に働いている。

『ぞうさん、どこにいるの?』 バルー/作 柳田邦男/訳 光村教育図書 2015.12 ¥1,300

ゾウやオウム達が、森の中に住んでいる。森には色とりどりの木々が生き茂り、どこに隠れているか、なかなか見つけられない。ところが、ページをめくっていくと、少しずつ木が切られ、家が建ち始めるようになり、隠れる場所がなくなってしまった。ついに

は、動物園へ入れられて…?最小限の言葉ながら、環境問題への強烈なメッセージが響く絵本。

<読み物—低学年から>

『キナコ』いとうみく/作 青山友美/絵 PHP 研究所 2015.12 ¥1,100

小1のゆまの家にもうすぐ赤ちゃんが生まれるのでママは飼育猫のキナコをおばあちゃんちに預けると言う。大反対のゆまは、学校の体育倉庫にキナコを隠していたらキナコがいなくなった。探しても見つからないまま時が過ぎ、ゆまはおねえちゃんになる。ある日公園で見かけた子猫はキナコそっくりで…。新しい家族を受け入れる複雑な気持ちをうまく表した1冊。

『よるのとしょかんたいぼうけん』 村中李衣/作 北村裕花/絵 BL 出版 2015.12 ¥1,200

とおるくんの大事なぬいぐるみのくまきちは、土曜日の夕方から日曜日の朝まで図書館にお泊りすることに。夜になると本の住人が出てきて、ぬいぐるみ仲間と一緒に楽しい冒険が始まり。ぬいぐるみの図書館おとまり会はアメリカで始まった子どもと図書館を親しく結ぶための試み。本作は山口県出身の作者が、山陽小野田市立中央図書館の協力で作成。

<読み物—中学年から>

『パイパイ、わたしの9さい!』 ヴァレリー・ゼナッティ/作 伏見操/訳 文研出版 2015.11 ¥1,200

10歳になる直前の少女タマは、ある日、テレビニュースから世界が不幸に溢れていることを知り愕然とする。戦争、飢餓、テロ、地球温暖化…。今の自分にできることをさがし、実行に移していく。「できるだけ早く大統領になって問題に正面から立ち向かわなきゃ」自分の頭で深く考え、新しい一歩を踏み出そうとするタマに勇気をもらえる1冊。

<読み物—高学年から>

『ガラスのペーゴマ』 榎なほ/作 朝日学生新聞社 2015.11 ¥1,200

小5の春、蓮人は東京から九州の田舎町に引越した。小1の弟あおいの喘息の療養のために。蓮人は、いつも父親は弟のことばかり優先していると不満に思う。転入したその日、あおいを「ミチヨ」と呼ぶ認知症のおじさんと出会う。なぜおじさんはガラスのペーゴマを見て涙を流すのか。戦争と家族のきずなをめぐる、やさしい物語。『朝日小学生新聞』連載を書き下ろし。

<読み物—中学生から>

『おとめの流儀。』 小嶋陽太郎/著 ポプラ社 2015.11 ¥1,500

長野県で受け継がれている「なぎなた」経験者のさと子が張り切って入部した「なぎなた部」。美人で凛々しい2年生の朝子さんと部員集めに奔走し、集まったなぎなた初心者たちが挑んだのは、男子剣道部との試合。打倒剣道部を目標に日夜工夫と努力を続ける6人の部員たちのユーモラスで切ない人間模様を描く。現役大学生作家の3作目。

『少年キム 上』 ラドヤード・キプリング/作 三辺律子/訳 岩波書店 2015.11 ¥760

19世紀、英領インドの町で生まれ育ったイギリス人孤児キム。好奇心旺盛で機知に富んだ彼は、チベットの高僧ラマの旅の供として町を出る。途中、アフガンの馬商人から頼まれた秘密の指令を見事果たし、イギリス情報局のスパイとして働くことに…。冒険小説であるとともにキムのアイデンティティを探る旅でもある。英国ノーベル賞作家の1901年原作の新訳。岩波少年文庫上下2巻。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『ルイ・ブライユ』 迎夏生/漫画 金子昭/監修 ポプラ社 2015.12 ¥950

幼い頃の怪我が原因で5歳で視力を失ったフランス人ルイ・ブライユ。盲学校に在学中、さわって読む点の文字「ソノグラフィ」に出会い、それを「点字」として完成させた。43歳の生涯を目の見えない人々の希望と可能性のために費やした彼の人生をまんがで紹介。巻末の「ためになる学習資料室」では日本点字の発展の様子も解説。4年生の国語科や総合の学習で活用可。

<ノンフィクション—中学生から>

『聞く力、話す力 インタビュー術入門』 松原耕二/著 河出書房新社 2015.11 ¥1,300

山口県生まれの作家であり、ニュースキャスターでもある著者によるインタビュー術入門。インタビューの依頼文の書き方から様々な相手の話を引き出すコツまで、実際にインタビューするための方法がわかりやすく説明されている。千人以上にインタビューしてきた経験を踏まえ、聞くという行為の重要性や、良い問いを発するのための考え方も論じられている。「14歳の世渡り術」。

<研究書>

『司書と先生がつくる学校図書館』 福岡淳子/著 玉川大学出版部 2015.12 ¥2,000

小学校教員、ボランティアを経て、公立小学校司書となった著者が、15年間の実践に基づいた学校図書館のあり方を豊富な具体例で示す。教師との協働の仕方、読書の動機付けの方法、蔵書の作り方など、日々の記録から語られ、説得力がある。真摯に子どもと本を知る努力を続けている著者の人柄も感じられる。本文で紹介した学年別お薦め本リスト、読み聞かせリスト付き。

【県内の動き】

★英語で絵本を読み聞かせ～ネイティブの英語で絵本を聞いてみよう～

- 日時：平成28年2月13日（土）13:00～14:00
- 会場：周南市立中央図書館 ○対象：小学1年生～6年生
- 定員：30名（受け付け順） ○参加費：無料 ○照会先：周南市立中央図書館(0834-22-8682)

★open!トネリコサロン「えほんのとびら」の絵本を開こう!

- 日時：平成28年2月14日（日）14:00～16:00 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室
- 参加費：無料 ○主催：山口市立中央図書館友の会「トネリコ」
- 照会先：トネリコ事務局 中村(083-920-0311)

★横山眞佐子さんによるオモシロイ本、探します!

- 日時：平成28年2月20日（土）13:30～15:00 ○会場：山口市秋穂地域交流センター 大会議室
- 対象：絵本に携わって3年以上の大人。初心者も可 ○定員：30名 ○参加費：500円
- 主催：こどもと本ジョイントネット21・山口
- 照会先：原田(083-984-2354、090-8712-3641) 山口(090-3636-2617)

★児童文学わいわい講座

- 日時：平成28年2月27日（土）10:00～12:00 ○会場：山陽小野田市立中央図書館 2階 第1会議室
- 講師：村中李衣（児童文学作家） ○定員：20名（先着順） ○照会先：山陽小野田市立中央図書館(0836-83-2870)

※子どもの本や読書についてイベント情報をお寄せください。